

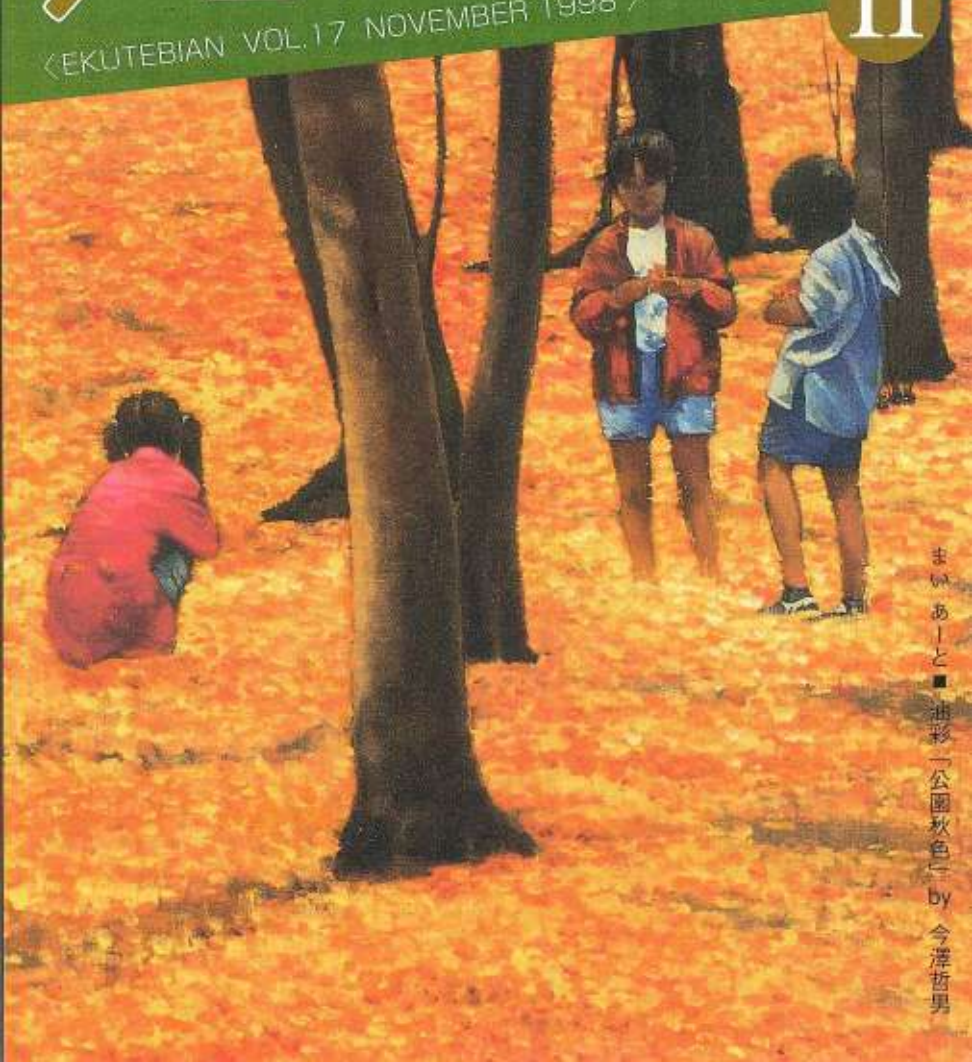
月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

# えくてびあん

<EKUTEBIAN VOL.17 NOVEMBER 1998 >

11



まいあーと ■ 油彩「公園秋色」 by 今澤哲男

# 錦町の『下和田地蔵堂』

旧甲州街道を柴崎市民体育館に向かって五、六十m進み、細い路地を右折すると、突き当たりに下和田地蔵堂があります。現在の地に安置されたのが大正四年、お堂の中には延命地蔵が二体並んで祀られています。昔、この辺りが下和田と呼ばれていた頃から、このお地蔵様のもとで念仏講があり、いまでも二月一日の天道念仏の日には、お供え物を手にした近所の方がわかるがわるお参りをされています。

以前に話を聞いたお年寄りの方々によると、幼い頃、泥で団子を作りお供えの真似事をして遊んだり、若い衆が夜中に担ぎ出してよその家の入口に立たせたりと、お地蔵様はこうしたいはずらの遊び相手になっていたそうです。また、歯の痛む時は大豆を煎ってお堂の下に埋めると、不思議と痛みが消えてしまったりと、下和田の人びとの暮らしになくてはならなかったお地蔵様の姿がうかがえます。

立川民俗の会 高橋千鶴子さん・談

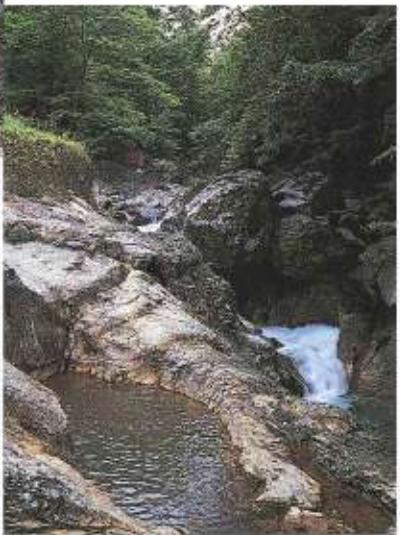


●所在地：錦町5-10-31

●建立：天保3年（1832年）※一体は不明



モデル：加藤裕佳子



### 【岩間温泉】

北海道河東郡  
上士幌町

台風の影響で、増水した音更川を徒渉すること二度。硫黄の臭いを頼りに流失した林道を上りやつの思いでたどり着いた「岩間の湯」。川からのバケツリレーで湯を埋める作業もまた楽し。風呂を噴すこと、これ体力勝負なり。

### 【平田内温泉】

北海道蘭志郡熊石町平

平田内川上流の自然の岩盤の窪みに満面と湯を満たしている。昔はよく熊が湯舟に浸かっていたので「熊の湯」と呼ぶ。沢の音、木漏れ日、自然のゆらぎにつつまれながら、今でも熊が訪れるという野趣満点のさらりとした湯を楽しむ。

## ●えくてびあんレポート

# 野ニ趣キテ風呂ヲ喰ラフ

## 「えくてびあんの野天風呂考」のススメ

自然を借景に湯を楽しむだけならば、温泉宿の風呂で事足りるのだが、山野に海に自噴する温泉を探し求めてめぐらす野天風呂考もまた格別なものである。今秋は台風による大雨に林道が流出してしまいう事態に陥り、熊出没注意の立札を横目でにらみ増水した川を渡る。行き着く先の温泉が冠水していてもこれも良しとする。運良く湯舟が見つければ、この湯を探しあてた先人達に感謝して、さっそくこちそうになる。大自然のゆらぎのメロデーに身をまかせ、大地の恵みの湯を心で味わうことこそ、えくてびあんの野天風呂考の極意とせん。

### 【水無海浜温泉】

北海道亀田郡  
楸法華村恵山碑

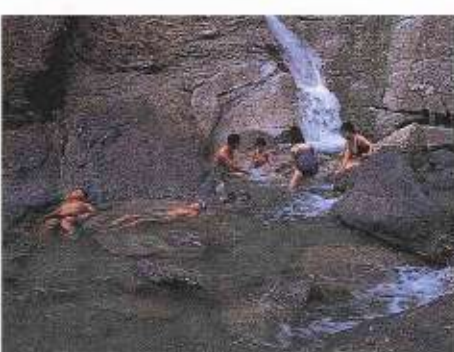
風呂を噴しながら朝日まで楽しもうとの目論見も生憎の曇天模様で半減。干潮と重なり湯は熱く、岩間には茹だったカニが何匹も見つかる。海と湯舟の往復を幾度と重ね、奇せる波の音を楽しむ。これぞ朝風呂の極意なり。



### 【網張温泉】

岩手県岩手郡  
聖石町長山網張

雨が降る中に出迎えてくれた「仙女の湯」は亀滝を背に白濁した硫黄泉を満たしている。頭に手拭いを載せるという行動が、雨の中では必要に迫られてであることを知る。火照った体に落ちてくる雨粒、これまたこち良し。



### 【川原毛大湯滝】

秋田県湯沢市  
川原毛

日本三大霊地・川原毛地獄から湧き出る湯が川となり、落差20mの大湯滝を形成。レモンをかじったような強酸性泉の水しぶきが目にしみる。この川全てが温泉である。思い思いの川辺で湯を楽しむ贅沢、自然の恵みに感謝。







画・辻もと以

蟻あり

ひ  
日かげから日なたへ  
あり  
蟻があるいていく。

蟻あり  
は

たいよう  
太陽をしらない、

そら  
空の深さをしらない、

ちきゅう  
地球をしらない。

ほそいひげで、

あしで、

ちい  
小さな小さな眼で、

うた  
さぐる宇宙は どんなかたち？